

全教委連第181号
令和2年12月4日

独立行政法人大学入試センター
理事長 山本 廣基 様

全国都道府県教育委員会連合会
会長 藤田 裕 司

平成30年告示高等学校学習指導要領に対応した大学入学共通テスト
の出題教科・科目等の検討状況に対する意見

令和2年10月20日付け入試セ企第74号通知「平成30年告示高等学校学習指導要領に対応した大学入学共通テストの出題教科・科目等の検討状況について」で依頼のありました件につきまして、下記のとおり意見を申し上げます。

大学入学共通テストは、高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力・判断力・表現力等を把握することを目的として実施されることに鑑み、高校生の多様な学びの成果を適切かつ公平・公正に評価できるよう、慎重な検討をお願いいたします。

記

1 出題教科（案）について

- ・ 今まで経験したことのないような対応を要することとなった新型コロナウイルス感染症対策をはじめとし、今後起こりうる想定外の状況下においても、質の高い試験問題を継続的・安定的に出題できるような状況を担保するためには、現状システムの改善を図る必要がある。しかしながら、同時に、高校生の多様な学びの成果を評価するためには、数多くの出題科目が必要となることも否めない事実である。子供たちの個別最適な学びを推進するという観点からも、出題教科・科目については、慎重に検討していただきたい。また、専門学科で学ぶ生徒においても、高等学校で学んだ成果を評価でき

るように、選択科目における配慮をお願いしたい。

2 出題科目等（案）について

- ・ 出題教科・科目の変更に伴い、試験時間、時間割、配点等変更が見込まれるものについては、受験する生徒の負担や教育課程の編成にも配慮した上で、適切な対応をお願いしたい。
- ・ 大学入学共通テストの出題教科・科目の設定は、生徒の希望進路実現という観点からも高等学校の教育課程編成に影響を及ぼすこともあるため、可能な限り早い段階における公表、丁寧な説明をお願いしたい。また、問題の構成についても慎重に検討をした上で、可能な限り早い段階における公表、丁寧な説明をお願いしたい。
- ・ 記述式問題の導入や英語4技能の評価等出題方法等については、「大学入試のあり方に関する検討会議」における検討結果を踏まえ、今後必要な対応を行うとのことであるが、生徒が、安心して大学入学共通テストに臨むことができるように、公平性の担保や実現可能性の確保等を含め、慎重な検討をお願いしたい。また、周知の時期や方法についても、生徒や学校が十分な準備期間を確保できるよう、可能な限り早い段階における公表、丁寧な説明をお願いしたい。

国 語

- ・ 出題科目、出題範囲については、現行同様、必履修科目の内容からの出題であるため、妥当であると考えます。

地理歴史

- ・ 出題科目、出題範囲については、概ね妥当であると考えます。なお、「地理歴史」と「公民」とを組み合わせた科目『地理総合、歴史総合、公共』を設定することについては、以下の点に留意の上、検討していただきたい。（公民においても同様である。）
- ・ 「地理歴史」「公民」と別々に設定するのではなく、「地理歴史・公民」のように教科区分に齟齬がない区分とする必要があると考えます。
- ・ 出題範囲については、妥当であると考えます。
- ・ 『地理総合、歴史総合、公共』を含む2科目を選択する場合、『地理総合、歴史総合、公共』で選択解答した問題の出題範囲の科目と

同一名称を含む科目の組み合わせを選択することはできないとしていることについて、出題科目の選択としての趣旨は妥当であると考ええるが、受験生の選択の幅が広がり、わかりやすい受験制度となるように工夫していただきたい。

公 民

- ・ 出題科目、出題範囲については、概ね妥当であると考ええる。なお、『公共、倫理、政治・経済』を設定することについては、高等学校の教育課程を編成する上で、公民として6単位を確保することが可能な学校は限られることや、生徒が学習すべき科目等が増加する可能性が高いと考えられるため、慎重に検討していただきたい。

数 学

- ・ 出題科目について、『数学Ⅰ、数学A』、『数学Ⅰ』、『数学Ⅱ、数学B、数学C』の3科目の他に、専門学科等教育課程の編成上、「数学B」、「数学C」を履修することのできない生徒も選択できるように、『数学Ⅱ』を加えることや、出題範囲についても、選択解答を可能とするなど、生徒の実情に応じた柔軟な対応を検討していただきたい。
- ・ 出題範囲について、『数学Ⅰ、数学A』は「数学Ⅰ」及び「数学A」の内容、『数学Ⅰ』は「数学Ⅰ」の内容とすることは妥当であると考ええる。

理 科

- ・ 出題科目について、「科学と人間生活」と「基礎あり科目（○○基礎）」の2科目を必履修科目として履修した生徒が対応できるように、『物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎』に「科学と人間生活」を加え、そのうち2科目の内容の問題を選択解答できるよう検討していただきたい。
- ・ 出題範囲、出題科目の選択方法について、「科学と人間生活」に係る部分以外は妥当であると考ええる。

外国語

- ・ 出題科目、出題範囲、『英語』の試験形態については、妥当である

と考える。

- ・ 『英語』以外の科目については、受験生が少ない現状はあるが、多様な学びの成果を評価する観点からも、存続していただけるよう慎重に検討していただきたい。

情 報

- ・ 出題科目、出題範囲について、「情報Ⅰ」とすることは妥当である
と考える。
- ・ プログラミング言語については、高校生の多様な学びの成果を公平に評価できるよう配慮するとともに、予め周知し、丁寧に説明していただきたい。
- ・ 出題方法、実施方法等については、今後の検討とのことであるが、高等学校における学習環境の違いを含め、公平性の担保が図れるよう慎重に検討していただきたい。
- ・ 新規に設定される教科であることを踏まえ、実施に当たり、生徒、学校が混乱することのないように、可能な限り早い時期から丁寧に説明するなど、十分に配慮していただきたい。また、試験日程や各大学の扱いについても、可能な限り早期に周知していただきたい。
- ・ 出題方法については、知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題等のバランスに配慮していただきたい。「情報」に限ったことではないが、問題が連動しているような出題の場合、正答率の二極化が懸念されるため、適切に生徒の力を評価できるように配慮していただきたい。
- ・ プログラミングの出題方式については、P B Tによる実施ということに鑑み、引き続き、思考力・判断力・表現力等を適切に評価できるような検討をお願いしたい。また、関数の扱いについても、プログラミングの基本となる考え方や技法を問うことから逸脱することのないように配慮していただきたい。

専門学科に関する科目

- ・ 専門学科で学ぶ生徒への対応として、『簿記・会計』、『情報関係基礎』については、引き続き、出題していただきたい。
- ・ 現在は、両科目共に、教科・数学における選択科目として位置付けられているが、教科・情報が新設されることから、『情報関係基礎』

は専門学科で学ぶ生徒のための情報の選択科目として位置付けることが妥当と考えるため、慎重に検討していただきたい。

3 その他（案）について

（1）C B Tの検討

- ・ C B T化することにより、生徒のコンピュータの活用能力等、当該教科の学力以外の力が影響を及ぼす可能性もあるため、慎重に検討していただきたい。
- ・ 全国的に均質で質の高い受験環境の確保、機材トラブル等への対応、公平性の担保という観点からも、環境が万全に整った上での実施としていただきたい。
- ・ C B Tの検討に当たり、I R T（Item Response Theory・項目反応理論）スコアの導入も視野に入ると考えられるが、大学入学共通テストに求められる質の高い問題の多数の確保や受験システムの大幅な変更、社会的理解の促進等、解決すべき課題に対して、実現可能性を含め、慎重に検討していただきたい。

（2）旧教育課程履修者に対する経過措置

- ・ 旧教育課程を履修した高等学校等卒業者が不利益を被ることのないよう、適切に対応していただきたい。

4 全体に係る事項

- ・ 大学入学を志す者の高等学校における学習の成果を適切に評価し、安心して大学入学共通テストに臨むことのできるよう、引き続き、慎重な検討をお願いしたい。